

3 標準仕様

品名	限流ヒューズ付気中負荷開閉器	
形式	PFS-205M-A	PFS-205TM-A
種類	手動式	引外し装置付
定格	電圧	7.2kV
	電流	開閉器部 200A ヒューズ部 G 100A
規格	投入遮断電流	A 12.5kA (実効値)
	引外し電圧	AC100V (連続定格) DC100V (短時間定格)
定格開閉容量	負荷電流	開閉器部 200A ヒューズ部 G 100A
	励磁電流	10A
	充電電流	10A
	コンデンサ電流	60A [リアクトル付]
定格耐電圧	60kV	
定格過負荷遮断電流	A 1800A	
操作方式	三極運動フック棒操作	三極運動フック棒操作 電圧引外し方式
適用ヒューズリンク	PFG-1S-□形 [75A、100A]	
総質量	9.0kg	9.5kg
準拠規格	JIS C 4611 限流ヒューズ付高圧交流負荷開閉器	

5 付属品について

- 本品には図3の注意シールが付属されています。入っていることをチェックください。
 ◎この注意シールは、お客様や保守点検者に対し、わかり易い位置に容易に判読できるように貼付けてください。
 [貼付場所の例]
 ・前面保護カバー・盤とびらの裏面
 ・スペアヒューズリンクの収納ボックス・フック棒収納場所など

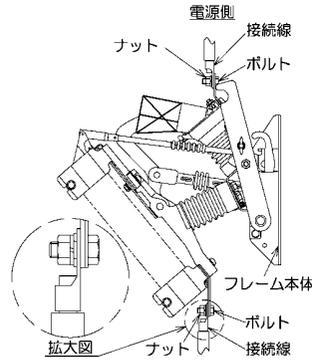
6 操作方法

『入』『切』操作
 『入』『切』は必ずフック棒で行ってください。またフック棒はONハンドルの右側より操作してください。

- 『入』操作
 フック棒をONハンドル先端のフック部に差し込み、ラッチがかかり完全にロックするまでに、途中で止めることなく一気に投入し、投入後、フック棒で長時間保持しないでください。また、ラッチのかかりが確実であることを確認してください。万が一ゆっくり投入、途中で止める、元に戻すような操作をするとアークが発生し事故に至ることがあります。
- 『切』操作
 ①手動操作
 フック棒によりOFFハンドルを一気に押しつけてラッチを外し、開放ください。
 ②自動操作 (PFS-205TM-A形の場合のみ)
 引外しコイルが装備されていますので、継電器または押しボタンスイッチに接続してください。(接続方法は図5および図6を参照してください。)
 注) 『入』『切』操作後は、『入』『切』表示板の確認をしてください。

7 結線方法

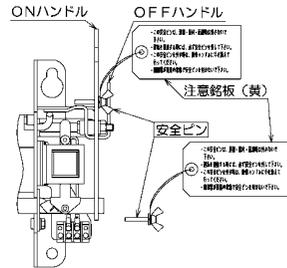
- 開閉器据付用及びケーブル接続用のネジ類は供給外ですので、あらかじめご用意ください。
- 本器は、動作を確実にし、操作を容易にするため垂直方向に取付けてください。
- 結線は、下部端子に負荷側、上部端子に電源側接続線をM8のボルトで固く締付けてください。(尚、端子用ボルトとナットの挿入方向は特に注意し、ボルト締付けは、端子に過度の力を与えぬようケーブルのクセ取りを行い、2本のスパナで締付けてください。締付けトルクは8~10N・m [80~100kgf・cm]で締付けてください。)
- アレスター端子締付けボルトはM8を使用し、ボルト挿入方向は、端子用ボルトと同じ方向で、締付けてください。
- 引外しコイルの結線は、ONハンドル動作に支障ないように、外部配線を引き出し、図5または図6のように結線してください。尚、端子台には、M3の圧着端子を使用してください。締付けトルクは、0.3~0.4N・m (3~4kgf・cm)で締付けてください。(PFS-205TM-A形の場合のみ)
- フレーム本体は保安上および電気機器の保護のため、必ず接地 (A種接地) を行ってください。フレーム本体には、フレーム側面に接地用のM5タップを設けていますので、圧着端子を使用して接地線と接続してください。(圧着端子は別途準備ください。)



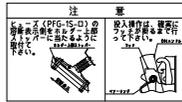
(図4)

4 安全ピンについて

- この開閉器には、図2のように閉路状態で開閉器をロックする『安全ピン』が付属されています。
 ①この『安全ピン』は、運搬・据付・配線輸送時は取付けたままとしてください。キュービクルに収納したまま運搬する場合でも、必ず開閉器が閉路状態で『安全ピン』を取付けておいてください。
 ②運転を開始する時には、必ず『安全ピン』を取外してください。
 ③この『安全ピン』を取外す時は、ONハンドルに手を添えて行ってください。
 ④開閉器が開路の状態ですべて『安全ピン』を取付けしないでください。

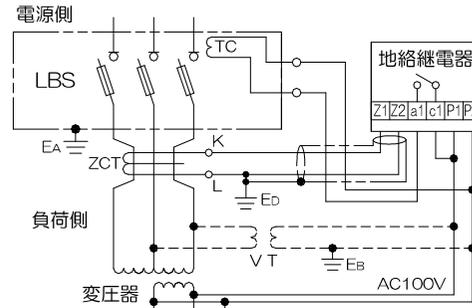


(図2)



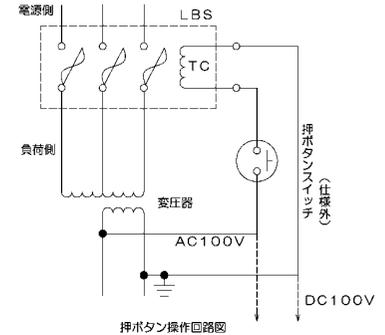
(図3)

<接続方法の例>



(図5) 地絡継電器と組合せの場合

注)はVTより電源を供給する場合
 (VTは200VA以上とする)



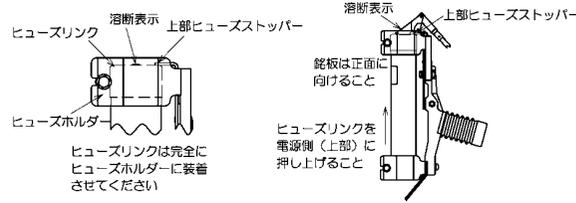
(図6)

- 引外しコイルの定格は、AC100V連続、DC100V短時間です。励磁電流は動作瞬時約4A流れます。
- 直流電源において引外しコイルは短時間定格 (許容1秒) ですからトリップしたら直ちに励磁を止めて下さい。(制御電源を開閉器の一次側よりつけた場合および別電源の場合)

8 ヒューズリンクの取付け

【適用ヒューズリンク】PFG-1S-□形 (75A、100A)

- ヒューズリンクの外観
 ヒューズリンクの取付前に、次の項目を点検してください。
 ①適用ヒューズリンクであるか形式を確認してください。
 ②定格電流が正しいか確認してください。
 ③絶縁筒にキレツ、欠けがないことを確認してください。
 ④溶断表示が飛び出したり、表示棒にホコリや異物がなければ確認してください。
- ヒューズリンクの取付け
 ヒューズリンクの取付けは、溶断表示を電源側 (上部) に取付け、ヒューズリンクの端面が電源側 (上部) のヒューズストッパーに当たるように装着してください。
 (この時、ヒューズリンクの銘板は正面に向けてください。)
 ヒューズリンクをホルダに挿入後、締付けボルト (フランジ付六角ボルト (M6)) を取外し前と同じ方向より入れ、締付けてください。締付けトルクは、3~4N・m (30~40kgf・cm) で締付けてください。



(図7)

(図8)

10 バリヤについて

バリヤをご使用の際は、別途ご注文ください。バリヤの使用は開閉器1台当り4枚の使用となります。

形式	開閉器1台当りの枚数
PFS-BM-□	4枚 (M5小ネジ4本付き)

・バリヤの取付け状態は図9をご参照ください。

(図9)

